

No.56 2013, Jan.

1 月・平成 25 年新年号

<http://city.hokkai.or.jp/~mtamaki/kyokai>

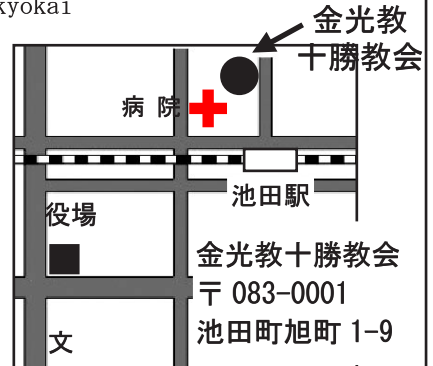
IKEDA

☎ 015-572-2322
fax 015-572-4213

十勝教会



だより 56

金光教
十勝教会

病院

役場

池田駅

金光教十勝教会
〒083-0001

池田町旭町 1-9

文

平成二十五年を迎えて
天地に生かされる人としての信心を進めましょう

平成二十五年、教祖百三十年、十勝教会創立九十三年のお年を迎えました。皆さんおめでとうございます。今年も教会の目標である「本当の信心をさせていただく」ことを求め、共に信心を進めていききたいと思います。

○

私たちがいただいている神様は、「天地金乃神」様です。教祖様は「天地金乃神のご神体は天地である。宮社に鎮まり納まつておられるのではない」、「天地金乃神様は天地を一目に見とおし、守っておられる」と仰っています。つまり、天地金乃神様とは「天地」そのものであり、「天地の働きを司る」神様であるということです。

ではその「天地」と一体何なのでしょう？ すぐに思い浮かぶのは、「天があり地がある」、つまり地球であったり、環境であったりというように私たちが住むこの世界を指す「天地」です。しかし、もっと詳しく言えば、私たちが

暮らす世界、そこにあるすべてのものの、それらを全部含んだのが「天地」なのです。私たちが暮らしているこの「地球」が天地です。その地球には、人間をはじめ様々な生き物や岩や水などいろいろな物が存在しますが、それらを全て含んだものが「天地」なのです。

例えば、「カレーライス」を考えてみれば分かるのですが、そこには野菜が入っていたり、お肉が入っていたり、ご飯があったり、小麦粉やスパイスを炒めたルーがありますが、それらを全部ひっくるめて「カレーライス」と呼ぶように、私たちを含めこの地上にいるもの、私たちの周りにあるもの全てをひっくるめたものが「天地」なのです。つまり、私たち人間一人ひとりも天地の一部であり、それは即ち天地金乃神様の一部でもあると言うことです。

○

その天地の一部である私たちは、様々な問題、難儀に出会います。病気、家庭、

学校、仕事など人が抱える問題、あるいは地球温暖化のように天地全てに関わる問題など数え上げればきりがありません。

ところが、これら人が直面する問題の多くは人自身が引き起こしているものです。人間同士のトラブル、環境問題などはそのいい例です。また、東日本大震災では、自然災害だ



けでは無く、原発など人間が作りあげたものが、結果的に人間はじめ環境まで破壊してしまいました。

天地金生神様は教祖様に、「神仏の宮寺社氏子の家宅、みな金神の地所、そのわけ知らず、方角日柄ばかり見て無礼いたし、前々の巡り合わせで難を受け」と、天地の一部であるはずの人間が、自分の都合だけで勝手なことばかりをし、結果、難を生みだしている状況を訴えておられました。

天地金乃神様にとって氏子である人間は、自分の一部でもあるわけです。その人間が自分勝手なことをして問題を引き起こすことは、神様にとっても人間にとっても良いことはありません。

人間の体を例にとってみるとよく分かると思いますが、人間は色々な細胞が集まってできています。癌のようにその中の一部の細胞が人間の意思とは違う勝手なことをしだす。自らも人間の一部でありながら、人間を苦しめるマイナスの働きをす

る。そうなる、人間は困ります。同じように天地金乃神様もお困りなのです。

そこで、天地金乃神様にとっても人間にとっても良くなることをしたい。そのためにはどうすれば良いか。元はといえば「天地の一部である」はずの人間が勝手なことをしているのですから、天地の一部としての人間の役割を取り戻せば良いのです。その「天地の一部である人」として、本来の役割を果すにはどうすれば良いのか」というのが、金光教の信心です。先ほどの天地金乃神様のお伝えでは、人間の現状を憂う後に「氏子、信心いたしておかげ受け」と付け加えられています。

では、具体的にどうすることが「天地」の中の人間の役割になるのか、それは「お礼の心」です。

私たちは、常に「何かの」そして「誰かの」お世話になって生きています。まず何より地球が無ければ私たちは

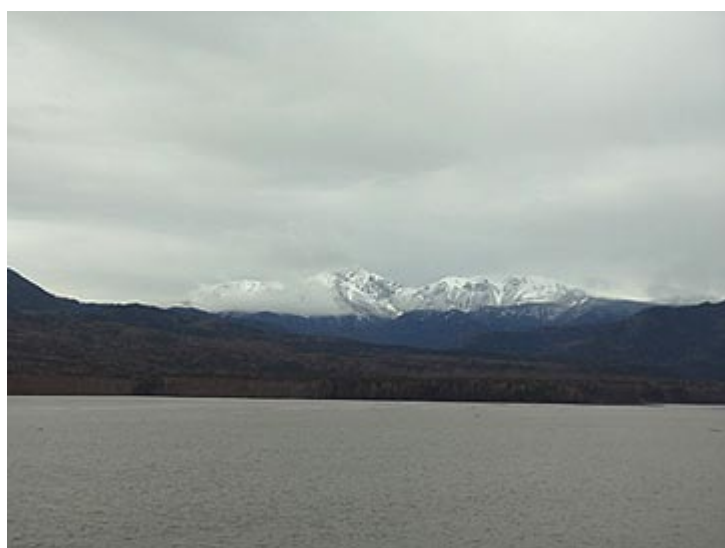
生きていけません。その地球の海や森などの自然、その自然の恵みである水や空気、農作物や水産物など、それらがなければ私たちは生きていけません。食べものでさえ、農家や漁師の方がいて、流通業者さんや加工業者さん、お店屋さんがいることで私たちの食生活は成り立っています。

冬の寒さの中、凍えること無く一日を過ごすことができるのは、建物が在り、暖房が在り、布団が在りそして暖かい食べ物があるからに他ありません。私たちはこれら衣食住全てにわたって何かしらのお世話になっているのです。

お世話になっているのであれば、お礼を言うのが人としての本来の姿では無いでしょうか。

でも、お礼をするには、「お世話になっている」ことに気がつかないかもしれません。

「お世話になっている」ことに気がつくには、誰かに教えて貰うのが一番です。それを教えてくれるのが



金光教の教祖金光大神様であり、その後を受け継がれた歴代の教主様であり、各地にある金光教の教会です。そして、「お世話になっている」ことに気がつけば、お礼を言うことは簡単です。日々お世話になる人、道具、食べ物、自然等々、お礼を言えるようになればそれが金光教の信心になっていくのです。

金光教では「神も助かり氏子も立ち行く」ことを願っています。「神」すなわち「天地」の助かりは、天地の一部である我々人間が、天地の中で本来担うべき役割を果たすことで達成され、そして「天地の助かり」は同時に私たちの助かり、立ち行き繋がってゆきます。

「天地」の一部である私たち人間が悪いことをすると、「天地」そのものもバランスが崩れてしまい、成り立たなくなる。ですから、私たちが「天地」の中で立ち行く生き方をすることが、「天地」そのものが立ち行く生き方になるのです。

(平成25年元旦)

金光大神賛仰詞について

本年は教祖百三十年のお年柄にあたり「金光大神賛仰詞」の末尾が次のように変わります。

限りなき神恩に浴し ここに教祖百三十年のお年柄を迎えまつる 尊き御一代を偲び慕いまつりて 御徳を賛え仰ぎまつる。

教会 日 誌

平成 24 年 11 月 1 日から 12 月 31 日まで

11 月 3 日	夕張教会大祭、衛先生祭主・教話御用。
11 月 3 日	北見教会大祭、交流参拝。
11 月 4 日	網走教会大祭、交流参拝。
11 月 5 日	帯広市、H 家、式年祭。
11 月 10 日	大祭前大掃除・大祭打合せ。
11 月 11 日	帯広教会布教九十年記念大祭、12 名参拝。
11 月 13 日	函館教会大祭、衛先生参列。
11 月 16 日	大祭前御用奉仕開始。
11 月 18 日	生神金光大神大祭執行。
11 月 23 日	帯広市、S 家、百日祭。
11 月 30 日	士幌町、M 家、百日祭。
12 月 1 日	札幌市、I 社、社屋兼倉庫新築奉告祭。
12 月 5 日	薫別講社生神金光大神大祭。

12 月 10 日	釧路市、O 家、葬儀式。
12 月 14 日	音更町、M 家、百日祭。
12 月 15 日	池田町、S 家、式年祭。
12 月 27 日	典樂練習会。
12 月 31 日	越年感謝祭。



- 写 真 -

帯広教会布教 90 年記念大祭

- 写 真 - 大祭前大掃除



- 写 真 - 生神金光大神大祭大祭



教会長・教会役員 玉串奉奠



参拝者代表 玉串奉奠



吉備舞奉納



立教神伝奉読



教話・釧路教会長江郷繁樹先生



信徒総代、信徒会長の挨拶



祭典後は婦人部の手作り料理で直会宴

十勝教会この後の主な祭典行事

- | | | |
|-----------|----------|--------|
| ・信徒会総会新年会 | 2月11日(祝) | 11時 |
| ・春の霊祭 | 3月20日(祝) | 13時30分 |
| ・勸学祭 | 4月1日(月) | 13時30分 |
| ・薫別講社大祭 | 4月5日(金) | 11時 |
| ・大祭前大掃除 | 4月7日(日) | 10時 |
| ・天地金乃神大祭 | 4月14日(日) | 11時 |

教祖 130 年本部大祭団体参拝
日程 10月5日(土)～8日(火)
10月6日の大祭に参拝

その後霊地散策(直信教会参拝)をします。
後日詳細をご案内します。